



大垣市金生山化石館

化石館だより

コラム

散策の合間に

緊急事態宣言が出されてから、毎日のように外出自粛が呼びかけられるようになりました。でも家に閉じこもってばかりいるとストレスが溜まりますし運動不足にもなります。そこでストレス発散と運動不足の解消を求めて、山頂に向かう道路には夫婦連れや子供連れの姿が多く見られるようになりました。赤坂の街中から金生山の山頂にある明星輪寺までは30分程度ですから、ちょっとした散策には手ごろな距離です。ただなかなかきつい急坂がずっと続いていますので、途中で休憩を入れないと一気に登れません。そんな時には、眼下に広がる濃尾平野や、岐阜城をいただく金華山、更にその向こうの中央アルプスや御嶽山などの眺めを楽しむとよいでしょう。金生山からの眺めはとても素晴らしいので、この眺めを目的に登られる方も多いと思います。



金華山（右）とアルプスの山並み（中央奥）



濃尾平野と養老山脈（右奥） 中央にお勝山

さて、遠くの景色を眺めて楽しむのも良いのですが、目を足元の石や周囲の植物に向けるとまた別の楽しみが得られると思います。金生山は石灰岩の山で全国的に知られている化石の産地です。ですから山道の周囲は化石を含んだ石灰岩が満ち溢れています。神社の石段や石垣、公園の庭石などを観察してみましょう。すぐにフズリナという小さな生物の化石をたくさん見つけることができます。フズリナは古生代の終わりころ（石炭紀～ペルム紀）に出現した生物で、フズリナ化石は地層の堆積時代を特定できる示準化石として教科書にも紹介されています。金生山で見つかるフズリナ化石は一種類だけではありません。よく見ると細長いものや丸いもの、大きなものや小さなものなど実に様々です。また無数のフズリナが密集している様子や、パラパラと間隔をあけて入っている様子、更には押しつぶされて扁平になっている様子など様々な姿が見られます。岩石の中に化石がどのような形に入っているのかは、古生物が死んで化石になるまでの出来事を推測する重要な手掛かりとなります。同じ大きさのものが密集している場合は、波の力で寄せ集められ転がされているうちに大きさが揃えられたと考えられます。押しつぶされている様子からは化石に加わった強い圧力が感じられます。フズリナだけではなく、サンゴや貝類の化石が見つかる

かもしれません。一休みのついでに、いろいろな種類の化石を探したり、過去の出来事を想像したりしてみてもいいでしょうか。

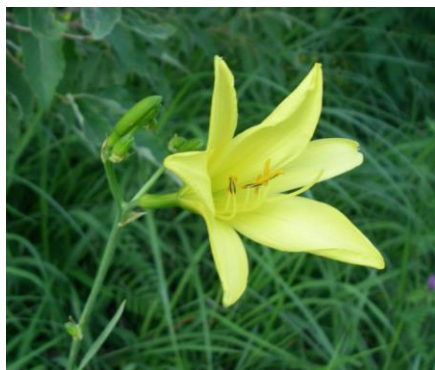
山頂までの間には、石灰岩が地上に露出している場所が何か所もあります。地上に露出した石灰岩は、長い年月の間に酸性の雨によって溶かされ円みを帯びた独特の形になっています。カルスト地形という言葉をご存知の方もいらっしゃるでしょう。ずっと以前、金生山の表面には溶蝕された石灰岩が一面に露出しカルスト地形を形成していました。今は僅かな場所での一部を見ることしかできませんが、かつての金生山の姿を想像してみてください。明星輪寺境内の奥に「岩巢公園」という場所がありますが、ここには溶蝕された石灰岩の巨石がたくさんあって見事です。



岩巢公園のカルスト

道路わきには様々な植物が見られますが、ビワやナンテンが多いことに気づかれると思います。ビワや

ナンテンは石灰岩地に多く見られる植物です。新緑の時期にはセンダンの紫の花が美しく咲きます。センダンは好石灰岩植物ではありませんが、金生山の周りにはなぜかセンダンの木が目立ちます。6月になるとユウスゲの花が咲きます。この花は名前の通り夕方に咲く花ですので、日中には観察できません。夕暮れ時に訪れていただければ美しい花が見られると思います。ユウスゲは特に珍しい花ではありませんが、西濃地域では金生山にしか自生していません、金生山化石館の裏にはユウスゲの群生地があり、大垣市は天然記念物として保護しています。



(文責：高木洋一)

お知らせ

前期企画展

明治期における金生山の化石研究

とき 5月10日(日)から **(現在コロナ対策で閉館中)**

場所 金生山化石館 2階展示室

内容 明治期に行われた赤坂石灰岩(金生山)に関する化石研究について紹介しています。

問い合わせ： 大垣市金生山化石館 電話 (0584) 71-0950 (ファックスも同じ)
Email kasekikan@city.ogaki.lg.jp